

令和4年12月1日

医療従事者の負担軽減及び処遇改善計画（令和4年度）

当院では、医療従事者の負担の軽減及び処遇の改善に資する体制を整備し、次のような取り組みを行っています。

取組の目標

当院が地域の急性期病院であることを再認識し、急性期病院の役割を果たすため、医師、看護師、医療従事職員等との間での業務の役割分担を推進して全職員の負担軽減に対する体制を確保することを、目標とする。

令和4年2月現在の勤務医の勤務状況

1. 医師数 常勤56名（研修医除く） 非常勤36名（常勤換算6.0名）
2. 常勤医師平均業務時間 平均週41時間53分
3. 当直回数 平均月1.47回

●医療従事者の負担軽減及び処遇改善

項目①外来診療時間の短縮、地域の他の保険医療機関との連携など外来縮小の取り組み

○令和3年度までの取り組み

- ・地域医療支援病院の承認（平成23年）を受け、外来医療の機能分化を推進してきた。

○現状

<逆紹介率の推移>

令和元年度 7,667件 100.4% 令和2年度 6,651件 109.4%
令和3年度 7,306件 101.8%
令和4年度（～9月） 3,449件 （前年度比－27件）

○令和4年度の目標

- ・地域医療支援病院の機能を維持し、地域の医療機関との機能分化推進を継続する。
- ・逆紹介数・率は令和元年度の数値を目標とする。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・9月のクラスターの影響もあり、昨年度同時期比較でもマイナスとなっており、目標には達していない。

○令和3年度までの取り組み

- ・地域連携パスの運用を推進してきた。

○現状

- ・大腿骨頸部骨折・脳卒中連携パスの運用の推移。
令和元年度 239件 令和2年度 230件
令和3年度 232件 令和4年度（～9月）101件（前年度比－12件）
- ・参加医療機関との書面会議を9月に実施。年度内にオンラインで開催予定。
- ・連携病院との症例検討会を1月に実施予定。

○令和4年度の目標

- ・地域の医療機関と良好な関係性を保ち、地域連携パスを運用し、スムーズな退院につなげる。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・前年同様、連携医療機関と顔の見える関係づくりには苦慮しているが、日頃からの電話でのやりとりやオンラインの活用により、おおむね今まで同様の良好な関係の中で連携パスを運用し、ひきつぐことができている。

○令和3年度までの取り組み

- ・入退院支援センターを設置し、入退院支援の充実を図っている。

○現状

- ・退院支援に関しては担当者により、退院後必要時、訪問診療等の対応が可能な医療機関の情報提供を行って支援している。

○令和4年度の目標

- ・患者の入退院をスムーズに進める。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・平均在院日数が11.3日（前年度比-0.2日）であることから、スムーズな退院についての目標はおおむね達成できていると思われる。
- ・入院支援に関しては、看護面談看護師と看護部の打ち合わせを定期的に行い情報共有することで、問題を明確化し、対策を行っている。

○令和3年度までの取り組み

- ・予約枠数を特に制限していない。

○現状

- ・日によっては、予約枠数を超えて、予約が入っている。

○令和4年度の目標

- ・より良い運用を検討し、外来縮小化、待ち時間短縮に向けた対策を検討、実施。
- ・病院機能の明確化、かかりつけ医制度の推奨を強化するための対策として10月より選定療養費が値上げされたことに伴い、当院の機能・役割をしっかりと患者に認識させる必要があることを実感。アピールの方法等を考え逆紹介の推奨等でも外来の縮小化を図る。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・ほぼ達成。

項目②院内保育所の設置（夜間帯の保育や病児保育の実施が望ましい）

○令和3年度までの取り組み

- ・職員の子育てを支援し、安心して働き続けられる勤務環境整備を目的として院内保育所の設置を検討している。

○現状

- ・開院時の運営開所については病院移転後の経営状況を勘案し開所を延期している。

○令和4年度の目標

- ・経営状況も含め院内保育所開所の可能性および職員の子育てを支援、働き続けられる勤務環境整備を継続して検討していく。
- ・臨時的に他の用途に転用している状況を踏まえつつ、委託費運営経費等病院負担を考慮し検討していく。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・現状として、院内保育所開設に向けての取り組みは進んでいない。引き続き補助金等により運営費用を削減し、実施できるように検討する。

項目③医師事務作業補助者の配置による病院勤務医の事務作業の負担軽減

- 令和3年度までの取り組み
 - ・主たる業務は文書作成補助。その他、担当者毎で担う業務が多少異なっている。
- 現状
 - ・令和2年2月、20：1取得。
 - ・外来代行業務1名配置(循環器内科1名)(令和2年4月～)。
 - ・現在、合計3名配置。
- 令和4年度の目標
 - ・全科生命保険診断書等の文書作成補助継続。
 - ・外来代行業務の配置者増員(1～2名)。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・全科生命保険診断書等の文書作成補助継続。
 - ・令和4年2月～消化器内科1名、3月～呼吸器外科1名、5月～脳外科1名配置。
 - ・現在、合計6名配置。

項目④病院勤務医の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇改善

- 令和3年度までの取り組み
 - ・受持ち制から複数主治医制への変更導入を推進している。
 - ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。
- 現状
 - ・診療科の特性があり、複数主治医制の導入は全科にて実施されていない。
 - ・二次救急輪番日には、17時～21時のシニア医師の当直支援や福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。
 - ・安全衛生委員会と連携し長時間労働となる医師の業務現状を把握し、健康管理面を含め、診療部長へ報告対策を実施。
- 令和4年度の目標
 - ・一部実施項目を完全に実施する。
 - ・診療科の特性を踏まえつつ、可能な限り、複数主治医制の導入推進。
 - ・4月より全科二次輪番日における交替制勤務の導入、勤務明けの休みを確保。
 - ・病状説明（IC）時間内実施の推進。
 - ・時間外入院患者死亡確認及びお見送りを当直および夜勤医師へ委任。
 - ・時間外オンコール呼出し診療科ルール作成の取り組み。

(続き)

○令和4年度の目標の達成状況

- ・診療科の特性があり、すべての診療科において複数主治医制の導入までは至っていないが、引き続き各診療科への働きかけを続ける。
- ・現在取り組みを進めている『医師の働き方改革』及びそれに基づく令和4年12月の『就業管理システム』導入にあわせて、各診療科へ改めて医師の時間外労働について説明し、IC時間内の実施のお願いや二次輪番日の勤務あけに帰宅するよう協力を促している。

項目 ⑤特定行為研修修了者である看護師複数名の配置及び活用による病院勤務医の負担軽減

○令和3年度までの取り組み

- ・平成29年度福島医大特定行為研修に1名受講。区分：創傷管理関連、創部ドレーン管理関連、栄養及び水分に係る薬剤投与関連、ろう孔管理関連。

○現状

- ・創傷管理関連（壊死組織除去、陰圧閉鎖療法）、HCU内の人工呼吸器関連、動脈血液ガス分析関連等の特定行為を実施している。

○令和4年度の目標

- ・特定行為研修修了者の特定行為の実施。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・特定行為研修終了者3名中、2名が特定行為を実施している。

項目 ⑥院内助産又は助産師外来の開設による病院勤務医の負担軽減

○令和3年度までの取り組み

- ・助産師外来の充実。

○現状

- ・助産師外来の実施により、産科婦人科外来医師の負担軽減につながっている。

○令和4年度の目標

- ・助産師外来の継続。
- ・分娩件数年間200件。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・助産師外来の継続。
- ・令和4年度（～9月） 分娩件数89件。

項目⑦看護補助者の配置による看護職員への負担軽減

- 令和3年度までの取り組み
 - ・3B、5A、5B、6B病棟に夜勤看護補助者を配置。
- 現状
 - ・25対1急性期看護補助体制加算を令和2年5月から算定継続中。
 - ・100対1夜間急性期看護補助体制加算を令和2年3月から算定継続中。
- 令和4年度の目標
 - ・25対1急性期看護補助体制加算算定の継続。
 - ・100対1夜間急性期看護補助体制加算算定の継続のための離職防止と職員の安定確保を継続。
- 令和4年度の目標の達成状況
令和4年4月以降
 - ・25対1急性期看護補助体制加算算定継続。
 - ・100対1夜間急性期看護補助体制加算算定継続。

●病院勤務医の負担軽減及び処遇改善

項目①勤務計画上、連続当直を行わない勤務体制の実施

- 令和3年度までの取り組み
 - ・医師当直勤務表により連続して当直を行わない勤務体制を構築している。
 - ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。
- 現状
 - ・当直日に配慮し、連続して当直勤務を行わない勤務体制を実施し、医師の負担軽減を図っている。
 - ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。
- 令和4年度の目標
 - ・引き続き医局の当直勤務表作成の担当者が連日当直にならないよう調整を図るとともに総務担当者による確認を行う。
 - ・医師の勤務時間の適切な把握管理の構築。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・令和4年12月導入の『就業管理システム』において、再度医師の勤務について説明し、各医師に理解を求めている。
 - ・連日当直とならないよう調整を行っており特に問題は無し。

項目②前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時刻の休息時間の確保（インターバル）

○令和3年度までの取り組み

- ・各診療科で翌日の業務予定を考慮しオンコール体制を組んでいる。

○現状

- ・各診療科で翌日の業務予定を考慮しながら、オンコール体制を組んでいる。

○令和4年度の目標

- ・主任部長により、休暇申請および時間外申請にて遅くまでの勤務届出を確認する。
- ・前日遅くまでの業務の場合は、支障のない範囲で出勤時間を遅らせる等、各主任部長に、前日の終業時刻と翌日の始業時刻の間の一定時間の休息時間が確保できるよう、継続して配慮要請するとともに完全休日の設定を要請する。
- ・医師の勤務時間の適切な把握管理の構築。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・令和4年12月導入の『就業管理システム』にあわせて、再度医師へ説明し、各医師に理解を求めている。各診療科の主任部長（部長）に部下の勤務については、任せており、今後は勤務インターバルの理解に努める予定。

項目③予定手術前日の当直や夜勤に関する配慮

○令和3年度までの取り組み

- ・各診療科および当直表体制担当により予定手術前日の当直を行わないように配慮している。
- ・福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請。

○現状

- ・各診療科および当直表体制担当により外科系予定手術前日の当直を行わないように配慮している。
- ・二次救急輪番日には、17時～21時のシニア医師の当直支援や福島医大より救急科の他、特定診療科への当直支援を要請し負担軽減を実施している。

○令和4年度の目標

- ・継続して外科系予定手術前日の当直を行わないように、各主任部長および当直表担当者が配慮する。更に内科系予定手術でも前日の当直を行わないように、各主任部長および当直表担当者が配慮する。
- ・手術室の効率的な運用、午前中開始や同一科の複数実施の際の効率運用を推進。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・継続して外科系予定手術前日の当直を行わないように、各主任部長および当直表

(続き)

担当者が配慮している。更に内科系予定手術でも前日の当直を行わないように、各主任部長および当直表作成担当者が配慮している。

項目④当直翌日の業務内容に対する配慮

○令和3年度までの取り組み

- ・各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務を免除している。

○現状

- ・各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務を免除しているが、診療科の特性により実施できないケースがある。

○令和4年度の目標

- ・引き続き各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務負担の緩和を考慮するように主任部長へ要請する。
- ・研修医も同様に指導医による配慮を要請し実施していく。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・各診療科で可能な限り、当直翌日午後からの勤務負担の緩和を考慮するよう働きかける（研修医も同様の対応）。

項目⑤交替勤務制・複数主治医制の実施

○令和3年度までの取り組み

- ・複数主治医制の導入を検討し、可能な診療科より負担の軽減を図る。

○現状

- ・複数主治医制を導入している診療科とできていない診療科がある。
- ・令和2年4月より全科二次輪番日に交替制勤務を導入。

○令和4年度の目標

- ・一部実施項目を完全に実施できるよう取り組む
- ・主治医と担当医と一緒に回診し患者情報を共有し休みを確保する。
- ・現在複数主治医制を導入していない診療科に対し、検討し負担の軽減を図るよう要請していく。

(続き)

○令和4年度の目標の達成状況

- ・複数主治医制の導入について各診療科へ依頼している。

項目⑥育児・介護休業法第23条第1項、同条第3項又は同法第24条の規定による措置を
活用した短時間正規雇用医師の活用

○令和3年度までの取り組み

- ・子育て中の女性医師に対し、当直免除などの対策をとっている。

○現状

- ・同上。

○令和4年度の目標

- ・対象となる医師が発生した場合は、育児・介護休業法で定める期間は、週30時間以上の勤務で常勤扱いとなることを考慮しつつ、該当する医師に関しては、短時間勤務の導入を検討していく。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・対象の医師には、制度の説明を実施。短時間勤務を希望する医師もあり、目標はおおむね達成されているといえる。

●医師と医療関係職種、医療関係職種と事務職員等における役割分担

項目初診時の予診の実施

○令和3年度までの取り組み

- ・待ち時間が長くなってしまい、問診コーナー廃止。
- ・玄関での問診票記載の確認、介助、トリアージを実施。
- ・各科外来で診察までに紹介患者、新患の情報収集。

○現状

- ・患者が記載した問診票の漏れや間違い等、正確な情報を把握できないことがあるため、看護師による確認を実施しているが、全ての確認はできていない。

○令和4年度の目標

- ・初診の問診票記載時に、看護師が確認して正確な情報収集に繋げる。
- ・COVID-19の症状、行動歴、接触歴を問診して入り口で感染予防に努める。

○令和4年度の目標の達成状況

令和4年度（～9月）実施件数

- ・問診票確認：505件
- ・COVID-19問診票確認：864件

項目 静脈採血等の実施

- 令和3年度までの取り組み
 - ・採血室における採血。
- 現状
 - ・検査部の管理で実施している。検査技師1名、看護師2名が専属。看護師1名検査技師1～2名を補助。
- 令和4年度の目標
 - ・よりスムーズに採血が出来るよう運営し、TATの短縮に繋げる。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・採血担当者は固定の技師・看護師に加え日替わりで技師が担当しているが各自採血の精度は確実に上がっている。被採血者からの苦情もなく採血検体のトラブルも殆どない状況であるため目標は達成されている。

項目 入院の説明の実施

- 令和3年度までの取り組み
 - ・PFM（入退院支援センター）を設置し、一連の流れで、入院決定時と入院日に、必要事項を患者・家族に説明を行う。
- 現状
 - ・入院決定日に、入院の案内パンフレットの配布と説明、入院手続き書類の説明、患者プロフィール用紙の記載説明等を行う。
 - ・入院日に必要書類を確認。
 - ・外来看護師・病棟看護師が事務的な説明に介入しないことにより、業務負担軽減を図っている。
- 令和4年度の目標
 - ・患者にわかりやすい説明。
 - ・PFM内での連携強化。
 - ・待ち時間を縮小。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・高齢の患者への説明は、理解出来ない方もいるので、「分からないことがあったらお声かけください」と伝えるようにしている。
 - ・朝のミーティングを行い、1日の予定を伝え連携強化に努めた。

項目 検査手順の説明の実施

- 令和3年度までの取り組み
 - ・検査説明看護師の配置は困難だった。
 - ・時間を要する大腸内視鏡検査の説明を、内視鏡センター看護師が行う事にした。
- 現状
 - ・内視鏡センターが多忙時には内視鏡センター看護師が検査説明ができず、説明待ちの患者を待たせることになるため、外来看護師が検査説明の応援に出向くことがある。
- 令和4年度の目標
 - ・時間を要する大腸内視鏡検査の説明を、内視鏡センター看護師が行う。
 - ・大腸ポリペクトミー・EMR（1泊2日）パスの説明を外来看護師が行う。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - 令和4年度（～9月）
 - ・大腸内視鏡検査説明　：444件
 - ・大腸ポリペクトミーEMR（1泊2日）パス説明　：23件

項目 服薬指導

- 令和3年度までの取り組み
 - ・薬剤管理指導料1，2算定。
- 現状
 - 令和3年度算定件数
 - ・薬剤管理指導料1（①）　2，645件
 - ・薬剤管理指導料2（②）　4，274件
- 令和4年度の目標
 - ①算定件数　2，500件（年）
 - ②算定件数　4，500件（年）
- 令和4年度の目標の達成状況
 - 令和4年度（～9月）
 - ①1，175件②1，690件

項目 クリニカルパスの活用

- 令和3年度までの取り組み
 - ・入院期間や治療内容を検証し、医療の質の標準化向上。
 - ・診療記録の充実、簡素化。
- 現状
 - ・クリニカルパス作成数や使用率等クリニカルパス委員会で集計し、システム掲示板にて周知。
 - ・新規パスについては、随時承認。
 - ・新規パス作成により医師の指示記載の負担軽減。
 - ・業務の可視化により、職種ごとの役割の分担。
- 令和4年度の目標
 - ・令和4年度診療報酬改定に係る入院期間修正。
 - ・院内承認パスを全て電子化。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・関係部署にて検討し、入院期間を短縮出来ないパスもある一方、未だ短縮の可否について回答のないパスもある。後者については引き続き働きかけを行う。
 - ・現在約 88%のパスが電子化。電子化に伴い、利便性や DPC の観点から細分化が必要なものもあり院内承認パスも増えている。

項目 救急医療等における診療の優先順位の決定

- 令和3年度までの取り組み
 - ・トリアージの研修を受けた看護師を救急センターに配置しトリアージを実施している。
- 現状
 - ・救急車両で来院した患者の診察介助をする傍らで、ウォークインの患者のトリアージを看護師が実施し、優先順位に即した医師の診察に繋げている。
- 令和4年度の目標
 - ・院内トリアージ継続。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - 令和4年度（～9月）
 - ・院内トリアージ件数：3, 196件

項目 薬剤師の病棟配置

- 令和3年度までの取り組み
 - ・2病棟3人体制。
- 現状
 - ・同上
- 令和4年度の目標
 - ・1病棟1人体制（減員のため。6A再開時は無理）。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・概ね1病棟1人体制を取れている。

項目 内視鏡検査補助

- 令和3年度までの取り組み
 - ・内視鏡業務における医師の手伝い。
- 現状
 - ・生理検査より派遣。
- 令和4年度の目標
 - ・職員産休中で人員不足しているが、産休明け次第、応援体制構築。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・生理検査室内での業務の多様化から内視鏡センターへの応援体制は取れていない。

項目 耳鼻科領域の検査補助

- 令和3年度までの取り組み
 - ・聴力検査等の手伝い。
- 現状
 - ・検査部で実施。
- 令和4年度の目標
 - ・質的に向上し、より迅速かつ正確な成績を臨床側に提供。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・検査実施可能な技師が増えている。また語音聴力検査依頼にも対応可能となり目標は達成している。

項目 病棟・外来の採血管等検査機材の補充

- 令和3年度までの取り組み
 - ・担当を決め各部署の在庫管理をしている。
- 現状
 - ・検査部ほぼ全員で実施。
- 令和4年度の目標
 - ・物品の補充だけでなく各部署と良好な関係性を築き、より良いサービスを提供する。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・検査部の新人も作業人員に加わり実施している。目標は達成している。

項目 健診部門において心電図要員として技師1名を派遣

- 令和3年度までの取り組み
 - ・健診者の心電図検査。
- 現状
 - ・朝の時間検査部より派遣。
- 令和4年度の目標
 - ・現状に満足せず患者サービス等質的な向上を目指しスムーズな運営ができるよう努力する。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・臨機応変に生理検査室または臨床検査室の技師が対応している。目標は達成している。

項目 栄養指導指示書作成

- 令和3年度までの取り組み
 - ・看護師と連携して栄養指導の必要性のある入院患者に対し、栄養指導指示書を代行入力する。
- 現状
 - ・全病棟実施。 件数30件/月。
- 令和4年度の目標
 - ・代行入力件数割合 年間80%。

(続き)

○令和4年度の目標の達成状況

4月 85.7% 5月 79.2% 6月 73.8% 7月 72.4%

8月 75.7% 9月 83.8%

4月～9月平均 78.5%。

項目 NSTラウンド

○令和3年度までの取り組み

- ・NST加算システムの構築。

○現状

- ・令和3年度実施件数 9件。

○令和4年度の目標

- ・年間80件。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・達成率10%。
- ・新型コロナウイルスによるラウンド自粛の為、目標を下回っている。

項目 食品扱いの経腸栄養使用予定患者の経腸栄養プラン作成

○令和3年度までの取り組み

- ・経管栄養開始予定患者に、プラン作成している（食品経腸栄養剤）。

○現状

- ・作成率74.6%（令和3年度）。

○令和4年度の目標

- ・年間75%。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・作成率87.7%（4月～9月）。

項目 外来の電子カルテ稼働に向けた支援

○令和3年度までの取り組み

- ・医師3名（内科1名、眼科1名、循環器内科1名）代行入力補助。
- ・問診票入力、紹介状入力支援。

○現状

- ・医師3名（内科1名、眼科1名、循環器内科1名）代行入力補助。
- ・問診票入力、紹介状入力支援。

(続き)

- 令和4年度の目標
 - ・外来代行業務の配置者増員(1～2名)。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・令和4年2月～消化器内科1名、3月～呼吸器外科1名、5月～脳外科1名配置。

項目 退院サマリ作成補助

- 令和3年度までの取り組み
 - ・診療情報管理室と連携し、速やかな作成を支援。
- 現状
 - ・2週間作成率90%超えをキープ。
- 令和4年度の目標
 - ・2週間作成率90%超えに貢献。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・2週間作成率90%超えをキープしている。

項目 外来サマリ作成補助

- 令和3年度までの取り組み
 - ・依頼時に作成補助。
- 現状
 - ・外来サマリの電子化を推進し、電子カルテ稼働を迎えることができた。
- 令和4年度の目標
 - ・外来サマリ作成を補助する。
- 令和4年度の目標の達成状況
 - ・依頼時に作成補助。
 - ・精神科外来縮小につき紹介状作成のため、令和4年9月～外来サマリ等作成補助中。

項目 持参薬の電子カルテ入力

- 令和3年度までの取り組み
 - ・持参薬の電子カルテ入力実施。
- 現状
 - ・持参薬の電子カルテ入力を行い、見読性が向上した。
- 令和4年度の目標
 - ・現状維持と運用方法の検討。

(続き)

○令和4年度の目標の達成状況

- ・入院前持参薬鑑別を令和4年2月から実施したが、薬剤師等の手間が増えた割には効果が少ないようだ。検証準備中。

●看護職員の負担軽減及び処遇改善

項目 病棟・外来のクラーク

○令和3年度までの取り組み

- ・平成28年10月より事務的業務を行う看護補助者を配置。

○現状

- ・5病棟(4F, 5A, 5B, 6A, 6B)に配置。

○令和4年度の目標

- ・5病棟(3B, 4F, 5A, 5B, 6B)での病棟クラーク配置の現状維持。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・令和4年4月以降、5病棟(3B, 4F, 5A, 5B, 6B)での病棟クラーク配置を継続している。

項目 夜間における看護業務の負担軽減

○令和3年度までの取り組み

- ・2交替勤務の推進。

○現状

- ・全病棟にて2交替勤務実施(12時間)。

○令和4年度の目標

- ・全部署での2交替勤務の継続。
- ・3Aでの16対1配置加算の算定。

○令和4年度の目標の達成状況

- ・全部署での2交替勤務の継続。
- ・3Aでの16対1配置加算の算定継続。